貓鼠襍纂　完

E 24
253

頼豪阿闍梨恠鼠傳引用群書要語

猫 本草綱目巻五十一獸部 時珍曰、猫苗茅二音、其名自呼、陸佃云、鼠害苗而猫捕之、故字从苗、礼記亦謂迎猫、為其食田鼠也、亦通、格古論曰、一名烏圓、或謂蒙貴即猫、誤矣、亦云、猫有病、以烏藥水灌之甚良、世傳薄荷酔猫、死猫引竹、物類相感然耳 ○今按、我俗傳、猫瘦以銅屑雑魚肉餌之必愈、近曽試之、似有功、然藥餌遅則亦竟不治し

酉陽雑俎後集巻八 段成式云、猫目睛暮圓、及午竪斂如綖、其鼻端常冷、唯夏至一日煖、其毛不容蚤虱、黒者闇中逆循其毛、即若火星、俗言猫洗面過耳、則客至、楚州謝陽出猫、有褐花者、霊武紅叱撥及青驄色者、猫一名蒙貴、一名烏員、平陵城、古譚國也、城中有一猫、常帶金鎖、有錢飛若蛺蝶、土人往々見之、

鷗外藏書
東京帝國大學圖書之印
B 23475

【猫睛】【字彙】猫睛辨十二時、子午為時先、故猫食鼠、
【納猫】【居家必用納猫法】凡買猫用斗桶、或物以袋盛之、勿令人見、至家討箸一根和猫置於桶内盛之、毎過溝缺処、将石置之、使不過家、從吉方归、取猫出、拝坐竈、大畢、将猫筋挿于土堆上、使不至家撒尿、然後復床睡、勿令去、出为逸、
【和訓】【和名類聚抄】猫、和名祢古万、似虎而小、能捕鼠為粮、【契中襍記】猫和ねこ鼠子待の略歟、鼠の類ヱ了ねこといふあれバ。ねことのこいふハ略語の中にてこゝ背べし。猫の性ハ鼠まくも鳥まくも。取得んと思ハねバ。さらぬものなり。よりて待とつけたる歟【奥州頭書云】猫ハさバ雎獣の略なるべし。けものゝけの字を略之。或人苗の字に法をそへて。るへけのといふはころし【全接】或説に【あさくまぬ】を猫といふ【秘藏】ハ夜ふけてあさくまぬまみあひぬるうちえひたくまあらふれてなく

【猫命婦】【小右記】長保元年九月十九日。内裡御猫産子。女院左大臣右大臣有産養事。有衛童撿飯納筥之衣等、猫乳母馬命婦、時人咲之奇怪事也【枕草紙】うへにさぶらふ御ねこハ。かうぶりたまはりて。命婦のおとゞとて。いとをかしければはかしづかせたまふが。はしに出たるを。乳母の馬の命婦。あなまさなや。いりたまへとよぶ云々

【靈猫】【本草綱目獣下云】藏器曰、靈猫生南海山谷、状如狸、自為牝牡、其陰如麝功亦相似、異物志云、靈猫一体、若雄入麝香中、罕能分別、用之亦如麝焉。○今按香狸、神狸、靈猫、皆靈猫之類

【咇】【群書纂要】咇呼猫声

〔山猫〕〔埤史〕山猫生、八丈嶋、形最長大、常栖山中巖窟、捕鳥為粮、動入人家、銜去小児啖之、

〔鼠〕〔本草綱目卷五十一〕時珍曰〔家鹿〕即人家常鼠也、以其尖喙善穴、故南陽人謂之〔䶂鼠〕其壽最長、故俗稱〔老鼠〕其性疑而不果、故曰〔首鼠〕嶺南人食而諱之、謂為〔家鹿〕鼠字象文、象其頭齒腹尾之形、

〔正字通〕鼠、賞呂切、音暑、穴蟲、善竊、晝伏夜動、四齒無牙、前爪四、後爪五、尾文如織、無毛、俗稱鼠為〔耗虫〕易繫辭艮為鼠〔雲仙雜志〕山中謂鼠為〔社君〕又〔水鼠〕穴水旁岸隙、似鼠而小、食菱芡魚蝦、又〔氷鼠〕東方朔云、生北邑、以積氷下、皮色柔可席、

〔鼠王〕〔鼠母〕〔酉陽雜俎〕旧識〔鼠王〕其溺一滴成鼠、一説〔鼠母〕頭腳似鼠、尾蒼、口銳、大如水中者、性畏狗、溺一滴成一鼠、時鼠災多起於鼠母、所至、動成万、万鼠其肉極美、凡鼠食死人目睛、則為鼠王、俗云、鼠齧上服有喜、如齧衣欲得蓋、無蓋凶

〔璞〕〔西京雜記卷六〕玉之未理者為璞、故鼠未腊者為璞、月之旦為朔、車之輞亦謂之朔、名齊實異、亦宜辨也

〔仲〕〔抱朴子〕鼠百歳則色白、善憑人而卜、名云仲、能知一年中吉凶

〔鼠戯〕〔五雜俎〕長安丐者有鼠戯、鼠至滑、非可教者、不知何以習之

〔捕鼠〕〔秘苑俗解〕捕鼠法、蟹ノ中ノ黄ナル物ヲ陰乾ニシ、安息香、鼈甲ト共ニ咊、屋中四方ノ壁ノ上下ニテコレヲ焚ヘシ、鼠自然ト出テ人前ニ至ル、捕テ埜外ニ送ルヘシ、殺シ傷ルコトナカレ、害除ルノ良法ナリ

〔和訓〕〔和名類聚鈔〕鼠、音与反、和名祢須美、〇又鼠一名〔こえひすみ〕〔秘蔵抄〕

も見ゆ、又（よめのきみ）といふ【定頼家集】に見えたり
鼠國【述異記】西域有鼠國、大者如狗、中者如兔、小者如常鼠、頭悉白、商賈
經過其地、不祈祀則齧人衣（今按）我俗謂为鼠隠里者是
火鼠【正字通】火鼠出西域及南海火州山有丑火、鼠産于中、甚大、人取其毛
績之、號火浣布、遇汗燒之即潔
鳥鼠【事文後集】鳥鼠山鼠尾短形如家鼠、鼠在内鳥在外为牝牡、
田鼠【月令】季春田鼠化为鴽
一鼠種類最多 鼫鼠【郭璞云】其大如豚其文如豹【説文云】鼷鼠小鼠也、食人及
鳥獸、雖至尽不痛、【和名抄云】鼷鼠上音奚、和名阿末久知祢須美、亦有鼱鼩
鼩 和名乃古称亦有鼷鼱 和名豆良祢古亦有䶄鼠 和名毛美【鈔云】俗云魚

佐佐山亦有鼬鼠 和名以太知 亦有鼹鼠 一名鼢鼠 和名宇古呂毛知 常在土中
行若見三光即死者是矣（今按）鼯鼠性畏檐馬音若樹間掛之則鼯鼠不壞
其根
猫五德【揮塵新譚】万壽寺有彬師者、善謔、嘗對客、猫踞其旁、彬謂客
曰、人言雞有五德、今吾此猫亦有之、客問其説、曰、見鼠不捕仁也、鼠奪其食
而讓之義也、客至設饌則出礼也、藏物甚密、能竊食之智也、毎冬月入竈
信也、客聞之、为之絶倒 明麻城王兆雲元禎筆記
女三宮猫【源氏物語若菜上】几帳どもしどけなくひきやりつゝ、人けちかくよ
づきてぞ見ゆる、からねこのいとちひさく、おかしげなるを、すこしおほきなる
ねこ、おひつゞきて、にはかにみすのつまよりはしりいづるに、人々をびえさわ

びて、そよ〳〵とみしろきさまよふけはひども、きぬのおとなひ、みゝかしが
ましき心ちす、ねこはまだよく人にもなつかぬにや、つないとながくつきたり
けるを、ものにひきかけまつはれにけるを、にげんとひこじろふほどに、みすの
そばいとあらはにひきあけられたるを、とみにひきなほす人もなし　右衛門督
ガ宮ヲカヰマミタテマツル段なり　又〔若菜下〕うちの御ねこのあまたひきつれたりけるは
らからどもの所〻にあかれて、この宮にもまゐれるが、いとをかしげにてあるくを
見るに、まづ思ひ出らるれば、六條院の姫宮の御かたに侍る猫こそ、いと見えぬ
やうなるかほして、をかしう侍りしか、はつかになん見給へしと啓し給へば、猫は
わざとらうたくせさせ給ふ御心にて、くはしくとはせ給ふ、からねこのここの
にたがへるさましてなん侍りし　○又女宮の御ねこをまうけて給はずて、大

殿へぞ忍ひておはしける、うちまどろまれど見えず、あけぬ、見つる夢のさたかなる子
あはれをかくさせ給ふまに、かの猫のなきはひしと忍ひ
いでらる、

〔猫牝牡〕〔本艸綱目〕時珍曰、俗傳牝猫無牡、但以竹箒掃背、祝竈神而求之亦孕、
此与以雞子祝竈而抱雞者相同、俱理之不可推者也、
〔猫肉〕〔時珍曰〕易簡方云、凡預防蠱毒、自少食猫肉、則蠱不能害、此亦隋書所
謂猫鬼野道之蠱、采肘后治鼠瘻核腫、或已潰出膿血者、取猫肉如常作羹
空心食之云、不傳之法也、
〔咆哮〕〔五雜俎〕咆哮猫互相戰之声
〔銀猫〕〔東鑑〕文治二年八月十六日午剋、西行上人退出、頻雖抑留、敢不拘之、二

品類以銀作猫被充贈物、上人乍拝領之於門外与教遊嬰児、是請重源
上人約諾東大寺料为勧進沙金、赴奥州、向以此便路巡礼鶴岳、云陸奥守
秀衡入道者、上人一族也、

(山猫)(徒然艸)奥山に猫またといふものゝありて人をくらふなると人のいひけるに、
山ならねとも、これらにも、猫のへあがりて、猫またになりて、人とる事はあなるものを
といふものありけるを、何阿弥陀仏とかや、連歌しける法師の、行願寺の辺
にありけるが、聞て、ひとりありかん身は、心すべきことにこそと思ける比しも

(倉鼠)(史記李斯傳)太倉之鼠、飽食而不驚、廁下之鼠、稚食而畏人

(社鼠)(家語)管子曰、社束木塗之、鼠因往託焉、燻之恐燒其木、灌之恐毀
其塗、此鼠所以不可得殺者、以社也

(鼩鼱)(前漢書東方朔傳)辟猶鼩鼱之襲狗(今按)本草綱目時珍曰、鼩鼱音劬
青、似鼠而既、即今地鼠也○又尔雅説文有鼸、鼶、鼣、鼱、鼩、鼷、鼮、八鼠、皆
魚攻記

(鼷鼠)(三輔決録)漢光武得寶似目鼷鼠(今按)鼷鼠小鼠也、我俗呼为波遁、可称
負徵者是

(鼠量)(書言故事)飲酒辞量窄、称鼠量

(鼠牙)(詩行露)誰謂鼠無牙、何以穿我墉、又(相鼠篇)相鼠有歯、人而無止、人而無
止、不死何俟

(鼠腹)(荘子逍遥篇)鷦鷯巣於深林、不過一枝、偃鼠飲河、不過満腹、

(鼠膽)(酉陽雑俎)鼠胆在肝、活取則有、

聚鼠【五雜俎】安息香能聚鼠、其烟白色如縷、直上不散、又狼糞烟、亦直上、故
烽燧用之、
投鼠【賈誼策】諺云、欲投鼠而忌器、鼠近於器、尚憚不投、恐傷其器、況貴
臣之近主乎
鼫鼠【荀子】鼫鼠五技而窮【注】技才能也、五技謂能飛不能上屋、能縁不能
窮對、能游不能渡谷、能穴不能掩身、能走不能先人、
鼠祠【太平記】白河ノ御宇ニ、江ノ帥匡房ノ兄ニ、三井寺ノ頼豪僧都ト云、貴キ人
有ケルヲ被召、皇子御誕生ノ御祷ヲゾ被仰付ケル、頼豪勅ヲ奉テ肝膽ヲ砕テ祈請シ
ケルニ、承保元年十二月十六日皇子御誕生有テケリ、帝叡感ノ餘リニ、御祈ノ
勧賞宜依請ト被宜下、頼豪年来ノ所望ナリケレバ他官禄一向ニ是ヲ閣テ、園
城寺ノ三摩耶戒壇造立ノ勅許ヲゾ申賜リケルニ山門又是ヲ聴テ欵状ヲ捧テ禁庭
ヘ訴ヘ先例ヲ引テ停廃セラレントト奏シケレバ無力三摩耶戒壇造立ノ勅裁ヲ被召返
ケル頼豪是ヲ怒テ百日ノ間髪ヲモ不剃爪ヲモ不切爐壇ノ煙ニフスボリ嗔恚ノ炎
ニ骨ヲ焦シテ我レ願クハ即身ニ大魔縁ト成テ玉体ヲ悩シ奉リ山門ノ佛法ヲ滅
サント云フ悪念ヲ発シ遂ニ三七日カ中ニ壇上ニシテ死ニケリ其怨霊果ノ邪毒ヲナシ
ケレバ頼豪カ祈出シ奉シ皇子未ダ御母后ノ御膝ノ上ヲ離レサセ給ハデ忽ニ御
隠レ有リ其後頼豪ガ亡霊忽ニ鐵ノ牙石ノ身ナル八万四千ノ鼠ト成テ比叡
山ニ登リ佛像経巻ヲ嚙破リケル間コレヲ防ニ無術シテ頼豪ヲ一社ノ神ニ崇メテ
其怨念ヲ鎮ム鼠ノ禿倉是也盛衰記亦同之シテイヨクハシ
一竹塚【盛衰記】清盛左衛門佐タリシ時大内ニテ鵺ノ声ヲナス化鳥ヲトル是モニヲ

ヒモノ之モヒユウハ鼠ノ唐名也博士ノ占ニ清盛取上ルコト吉祥也トイフ、南軍ノ
竹ヲ召シテ中ニ龍ヲ請シ水寺ノ西ニ埋ラレタリ御悩ノ時勅使立テ宣命ヲ合ルトキ
モヒユウ竹カ塚トシフ是也 摘要
鼠賦 〔太平楽府〕 二月鼠ノ穴ヲ塞グ〳〵汝カイタヅラオモヘ家ニ居テ人ヲカ
ソル、ハ足ノ裏ニ疵持ケラシ油ヲ飲ム事世ノ酒ニ均シケレトイウニカニ沈酔ヲ見ズ
粟ヲ盡シ噐ヲソコナフハ殊更ニイハシ人妻ヲカムヲニフルレハ病ヲ生ス恥ナシキ文
ヲ散シテ男女ノ中ヲ妨ケ、アヤシキ巣ヲ作リテ、源平ノ乱ヲキソ、何ヲヘツラヒテ、人ノ
剣ニ引出ラレ、イカニスヽメテカ書ヲ焼久代ノ宰相トナシ、タフトキモ、尿糞
ニ汚シタテマツル、草稼ヲハム月ノ鼠ハ、ニケリ、ツク〳〵汝カ危キヲ思
ヘ、夫レ人ノ賢ヲヤ万木龍〳〵 吹失ヲ儲 モムヲヌリテ、注來モタヤスカラス、ケトレ

八

キ城ヲツタノミトモ、鼬ヲ防ク手段ハアラジ、杳カナル空ヲ詠メテハ、弐鳥ノ摺マシ ロフスルツバクラス、
術走リ障子ノボリ、早業得タリガホナレモ、オモハズモ舛ニ掛テ、イカ斗ノ辛キ目ニ
ルラシ、虚死シテ仕合ニ、東坡カ袋ヲ逃クリトモ、生捕レテムマナカニ、張湯カ文ヲ
ウケテシ、或ハ銭ヲ頸ニサゲテ児童ノ翫トナリ、アルヒハ筆ノ為ニ髭ヲヌカレテ、老ノ悔ヲ
残セリ、誤テ書畫鼠ト蔵ツフシ、孺鼠ト笑ハレ、更ニ吹貼トイルヽシミテ、人ノ為ニ悦レ
ヌル、ワレサヘカナシキヲ、焼鼠トナリテ狐狸ノ命トラムヨリ、アサマシク罷フカケレ、ウク
ク汝カ尊キヲ思ヘ、日ヨミノ始ニ呼レテ、伍司賤カラス、百ミキノ賀ハキモ甲子ヲムカヘ
テ年ノ号改メ賜フカミ、アラ玉ノ春立カヘレハ、子ノ日ノ御賀アリ、子祭トイヘルハイ
ツレモ長者ノ傳ヘタル、カラノヤマトノ歌ニモヨメリ、海原ヤモミホノ陰ニ友ヨブナマコハ海
鼠トカシ、焼風ノ尾花ガ末ニ書窓フ鶏ハ田鼠ノ化ミタルナリケリ、烏羽玉ノ

暗キ夜ハ、イカヅチトモナレリ、象トイヘル獣スラ、カツ恐懼レヌル、麝香鼠ハ筑紫ニ住
ナレテ、コト國ニ行ズ、カツギ姿ノワカヤカナルハ、嫁入ノ繪虚事ニゾ、ドコノ乙子ノ七郎
ト申ス、新左衛門トウケタルハ、サカヤキスリテノ後ナルヘシ、大ネラハネラ、将昔鼠
ト名ノリ、月月ニ十二ノ子ヲウム、誰カ家ニカトリ尽シ得シ、若シ白子出シ、福ノ神ト
愛セラレシハ、啖カ隠里ハイツクホトリゾヤ、武蔵埜ノ鼠穴ニヤ、出羽ノ境ノ鼠カ関ナル
カ、信濃ノ奥ノ鼠宿ナルカ、目出タキ身ヲモテ、ヤリツメ毋ヲ舁ナル、ナドカ但ミシ吏
ヲカモハサル、窮鼠カヘリテ猫ヲ噛ノ志アリトモ、三井ノ頼豪カ千疋ノ勢スラ、本意
ヲ遂ルコハ、ナホ聞エザリケリ

○鼠種類最多鼷鼠又田鼠鼩鼠隠鼠並同偃鼠又鼠母鼹鼠並同此餘有
鼢鼠竹鼠土鼠撥鼠黄鼠貂鼠鼬鼠食蛇鼠蟹鼠今不能悉注焉

相猫詩訣。猫児身短最為良、眼用金銀尾用長、面似虎威声要吼、老
鼠聞之立便亡、又詩云、露爪能翻尾、腰長會走家、面長雞種絶、尾大懶
如蛇、又猫口中生三坎捉一季、五坎捉二季、七坎捉三季、九坎捉四季、花朝
口咬頭、牲耳薄不畏寒、純白純黒純黄者有猫児、此様毛色、不必揀、看
花猫法身上有花又要四足及尾花俱得過方好右呉郡俞宗納猫法

頼豪阿闍梨恠鼠傳引群書要語大尾

寧固居士追録

猫墳 僧道存字石荘上元人畜一猫及師㧞死卧遺骨中七日不食而死甘亭人楊洲葬之庵後門人呼之曰義猫墳 右揚洲画舫録ニ見エタリ

猫救鯉死 武蔵国高麗郡岩淵村人遠藤豊二郎者池畜鯉魚長可二尺一日晒背噞喁有猫覘之手撈其肥鯉魚一躍曳猫入水底猫窘甚殆ト死屡免 東洋新報十二

清馮景書丁義事 義猫 江浦李六郎家有紅猫毎出邑梁間忽墜地福王建国南王彪臣為太監言六郎紅猫異福王使取之六郎抱猫逃彪臣縦飾制殺之猫入宮一夕伺彪臣酔睡囓喉断之彪臣手不能捽流血満被竟死猫不知所之

鼠丸 王韋遺逆 鼠丸以銅為之昼夜自轉 出酉陽雑俎

帯出期限表

下記の日付までにお返し下さい

返納日	返納日
51.10.23	

東京大学綜合図書館